



# 福谷章子のまちづくり通信

2012年5月号（平成24年5月20日発行）  
〒266-0031 千葉市緑区おゆみ野3丁目40-8 河野ビル213号  
e-mail: [fukutani2903@gmail.com](mailto:fukutani2903@gmail.com)  
ブログ: <http://fukutani.blog.ocn.ne.jp>

編集・発行 千葉市議会議員 福谷章子（未来創造ちば）  
tel&fax 043-312-2903  
ホームページ: <http://fukutani-office.com>  
ツイッター: <http://twitter.com/shoukosan>

新緑の季節となりました。千葉市議会は第1回定例会（2/20～3/16）で平成24年度の千葉市予算（※）を認めました。依然として収支不足が続く厳しい状況です。

一般質問では、未来を見据え【集約型社会について】【市民自治の推進について】の2項目を取り上げて、議場で議論をしました。

今号は、それらに関連する事項を取り上げています。みなさんのご意見やご提案もお待ちしています。

※平成24年度千葉市予算

	一般会計	特別会計	合計
今期予算	3,658億4,000万円	3,875億1,600万円	7,533億5,600万円
前年比	76億4,000万円増 2.1%増	190億7,900万円増 5.2%増	267億1,900万円増 3.7%増

## 未来 財政状況から考える… バラまきならぬタネまき予算で未来へつなぐ！

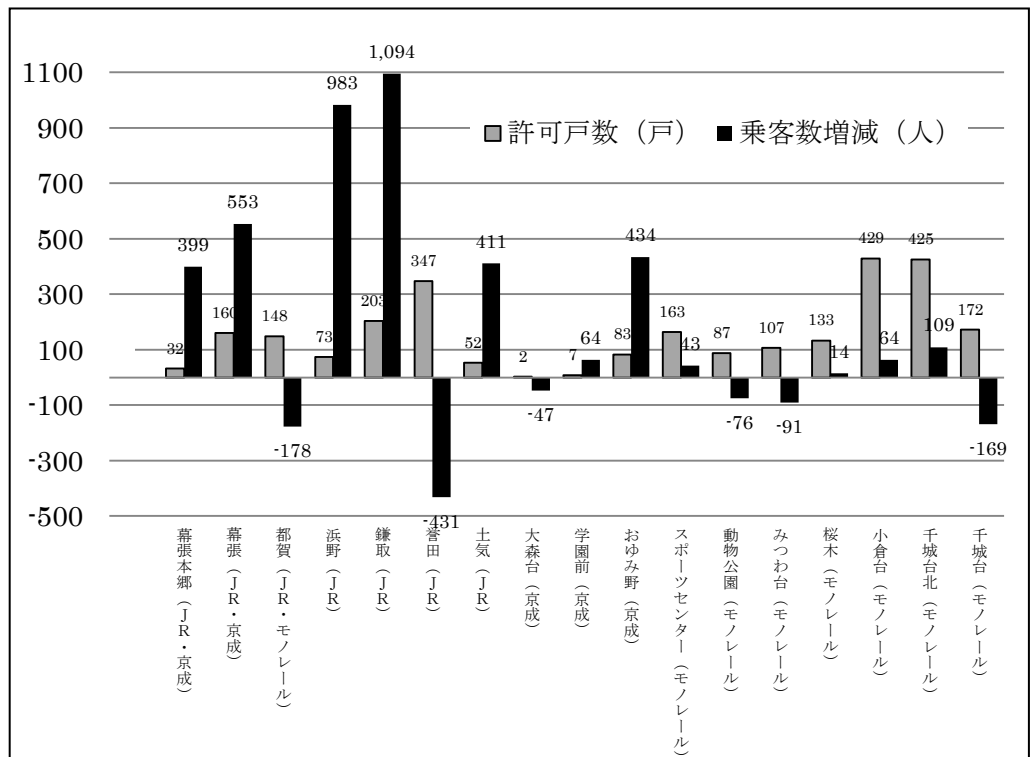
市民生活を支えるための千葉市の予算は、一般会計で年間3600億円程度が必要です。しかしながら、そのための財源が平成22年度の予算編成時には267億円不足したことから、「脱・財政危機宣言」を出し、市民に初めて苦しい台所事情が公開されました。その後平成22年3月には、財政健全化プランを策定して財政の健全化に向けた取り組みが行われ、予算編成のための財源不足は、23年度は135億円、24年度は112億円と、減少してきています。

千葉市の財政力は政令指定都市の中でも高く、自主財源比率も64%となっています。しかしその一方で、経常収支比率は97.7%で、自由度が少ないことがわかります。今後、税収の増加の見込みも少ないことから、現状の市民サービスや市の事業が、真に必要なのかどうかについて見直しが必要です。

今年度の予算は、新たな課題に備えるためのタネまき予算でもありと見え、承認をしました。

## 未来 まちづくりから考える… 集約型都市を目指す！

千葉市はコンパクトシティを目指して、平成18年9月にモノレールと鉄道駅周辺半径1キロメートルは市街化調整区域であっても開発できるという条例を制定し、駅周辺に住宅を集め、モノレールの利用増も図ってまいりましたが、下のグラフに示すように、必ずしも乗客数の増加につながったわけではありません。



また、高齢化によって空き家が目立つ地域もあります。今後はそのような状況に対応するために住生活基本計画の見直しも行われます。

従来のような開発一辺倒ではなく、既存ものを活かし、手を入れながら大切に使うことに価値を置くことも大切です。壊しては作りかえるまちづくりを再考する必要があります。

一方、千葉市では集約型都市を目指したプランの策定に取り組むこととし、24年度はそのための調査検討が始まります。まちの集約とはどのようなことを意味するのかの議論には、わたしたち一人一人も参画していく必要があります。

## どんな未来を目指しましょうか？

### 未来 人口構造と家族構成から考える… 多世代の居場所づくりを！

千葉市は現在比較的若い都市ですが、今後急激な高齢化と生産年齢人口の減少は覚悟しなくてはなりません。市の試算では、平成27年から人口は減少してそれ以降増えないとしていましたが、この3月の集計では、すでに減少が始まっていることが明らかになり、高齢化率も千葉市は21%、緑区は17%でした。少子化対策として待機児童解消を図るなどの取り組みをしていますが、そもそも、若者の就労も保障されない中、出産どころか結婚さえままならないのが現状です。

世帯構成をみても、平成17年国勢調査までは「夫婦と子どもから成る世帯」が一般世帯の最多家族類型でしたが、平成22年の国勢調査結果では、一般世帯に占める「単独世帯」の割合が29%から33%に上昇し、「夫婦と子どもから成る世帯」の31.7%を上回っています。

介護にしても子育てにしても、家族が担いきれなくなっている状況が、このようなデータからも明らかです。虐待や若者の自殺、あるいは不登校、孤立死など、専門機関のサポートが必要と思われる事例が増え、自助でできること、共助でできること、さらに公的な支援が必要なことについて、しっかり見極めていく必要があります。

24年度予算では、次のような配慮がされていますが、今後は行政が設置して地域が運営していけるような多世代の居場所づくりが必要であることを提案しました。

#### 24年度の市の取り組み

- 子ども・若者相談センター
- 私立保育園新設（あすみが丘地区45人 おゆみ野地区90人）
- 安心ケアセンターの増設（12か所→24か所）
- 三世帯同居支援
- 障害者虐待防止センター

### 未来 地域社会から考える… さまざまな支え合いの仕組みを！

個人化、行き過ぎた個人情報保護、匿名化、など地域課題を解決する際に立ちはだかる新たな障害があります。また、千葉市は転出入が多いことから地域の繋がりも作りにくい中で、どのような連携や支え合い、相互理解の仕組みを作っていくかが課題です。市は、町内自治会に期待をして結成率を上げることに集中していますが、地縁組織だけではなく、さまざまなグループや個人が地域に参画できる仕組みを作っていくことも大切です（自治会や防災会については、裏面で詳しく取り上げます）。



## 未来創造ちは会派シンポジウムにて

### 震災を越えて これからの豊かさとは

4/28 私が所属する未来創造ちは会派が開催したシンポジウムでは、徳永副市長に課題提起をお願いし、参加者と意見交換をしました。

徳永副市長によれば、千葉市政では、

- 短期的には・・・  
市役所の組織や事業のスリム化、効率と利便性を上げるためのICT化が課題。
- 中期的には・・・  
医療介護量の軽減、企業誘致と起業支援、子育て支援と教育、健康対策と介護支援に重点を置く。
- 長期的には・・・  
都市全体のスリム化に取り組みねばならないだろうと考えている。

この長期的な課題が、すなわち集約型社会の姿となってくると思われます。

- 一方、参加者からは以下のような意見が出ました。
- ・新基本計画はよくできている。しかし、人口減社会はちょっとさびしい。家族や親子のあり方を見直し、政策的に家の見直しなどをする必要がある。
  - ・痛みを伴う施策を進めるにあたっては、丁寧な説明が必要。何年後には財政状況はこうなり、こういうことをやります・・・という提案の仕方が良い。
  - ・自主防災組織の防災訓練は実態に即していない。小学校に避難することとか、災害の前提条件など、もう少し冷静に考えてはどうか。
  - ・若者の立場から言えば、一人暮らしは町内会に入りづらい。いつ転居するかわからないので申し訳が無いと思っているから。役所の人は、前例がない、金がない、を理由にするのはやめてほしい。
  - ・高度地区はどうなったのか。公民館のあり方の見直し方法は？
  - ・千葉県&千葉市の文化を大切にしてほしい。

## いざという時のために・・・

東日本大震災を経て、いざという時の備えや支え合いの仕組みについて考えた1年でした。その中で、情報と避難所について調査しました。

### 防災無線の内容を電話で確認できるようになります！

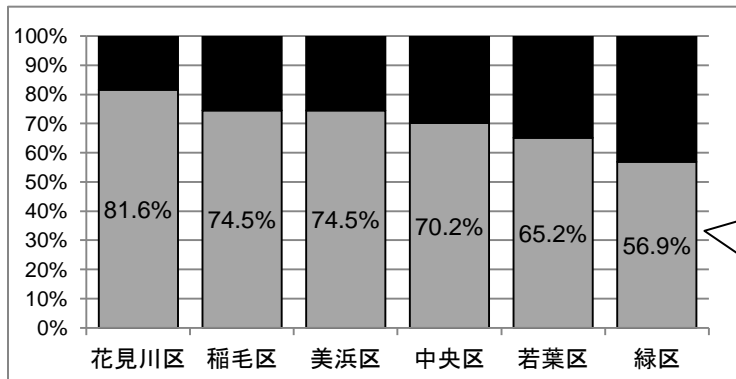
～防災無線だけに頼れない緊急情報～

いざという時、行政が発信する最もわかりやすいのは防災無線です。朝のカッコや夕方の夕焼けこやけを流しているあの発信です。ところが、この防災無線だけに頼るのは過信です。というのは、発信音は風向きや家の作りによって聞こえにくさが変わります。また、流れていることに気づいて耳をそばだてても内容は途中からで不完全です。流された内容についてはホームページで確認できますが、**今年度中に自宅の電話での確認ができるような整備を進めます。**また、ICTは上手く使えば、最も情報が早くて正確です。個人で使いこなすことが難しければ地域単位や避難所単位で情報のプラットフォーム化を図ることも一つの手立てであると考えます。

### 期待される避難所運営委員会

#### 自治会未加入者をどうする？ ぜひ災害弱者の意見も！

市では、334箇所を避難所として指定していますが、いざという時にその避難所を機能させるためには地域住民の日頃の準備が必要です。今までそのようなことは考えられてきませんでした。東日本大震災以降その重要性に気がつきました。例えば避難所にマンホールトイレなどが設置されていても、その組み立て方を知らないでは困ります。そこで、避難所ごとに運営に関わっても良いという自治会に手を挙げてもらい、具体的な運営について考えてもらうことになっています。ところが、現実には自治会結成率は100%ではない(※下グラフ参照)ので、加入していない市民は現在門外漢です。そこで、未加入者への情報提供や避難所運営に関わる手立てなど、早急に考える必要があります。さらに、障がい者や高齢者、女性などは今回の震災でも避難所生活で苦痛を強いられた事例がありました。これから始まる各地域の避難所運営委員会には、女性や障がいのある人の代表者などにもぜひ関わっていただきたいと思ひます。



各区の自治会結成率

緑区は結成率が低く、自治会未加入者への周知が課題です。

## ○ゴミの有料化を考える○

- Q1) ゴミ袋を買っているのだからゴミ処理は有料だと思っていませんか？
- Q2) 千葉市廃棄物減量等推進審議会が、ゴミを有料化すべきと言う答申を出していることをご存知ですか？
- Q3) 有料化する理由をご存知ですか？
- Q4) 有料化することをどう思いますか？

廃棄物=ごみ=資源とも考えられていますが、ゴミ処理は奥深い問題です。千葉市では、平成7年1月に、分別の徹底、危険物混入の早期発見、他市からの不法投棄防止のために指定袋を導入しました。現在使用しているゴミ袋に税金は含まれていません。家庭ゴミの有料化についての議論が旭上に乗りました。「今まで無料サービスだったゴミ処理が有料になるとは！」という声も寄せられました。元々ゴミ処理は無料ではなく、清掃工場の建設、維持管理、ゴミの運搬コストなど、私たちの税金がそこにどっさり投入されています。ゴミ自体を減らす努力がされてきましたが、それも限界だという意見もあります。奥深いゴミ問題について、今後考えていきたいと思ひます。ぜひみなさんのご意見をお聞かせください。

## 市民自治の推進に向けて ~緑区では3年前からのまち育て事業~

緑区では3年前から、区民が自主的に行う活動に対して助成をする“まち育て事業”を展開しておりますが、年々申請件数が増えています。

22年度：7件申請(7件に576,000円助成)→23年度：14件申請(11件に937,000円助成)→24年度：20件申請(12件採択、予算は150万円)

以下に24年度採択された事業の内容をご紹介します。

越智はなみずき台団地内にある事務所を拠点に、家事支援、生活支援、交流サロン、会報発行などの活動を行う。

おゆみ野遊歩道通学路の自転車と歩行者の接触事故を防止するため、通行位置表示活動を行う。

プレーパークの開催。木工作体験・ロープを使った自由な遊び・シャボン玉遊び・火を使った食材の調理。

「防災マップ～おゆみ野版～」の作成。

誉田にて、ウォーキング・グランドゴルフ・スポーツチャンバラ・スポーツ大会などにより、地域住民の交流や健康増進を目指す。

おゆみ野四季の道を中心にした青少年育成及びコミュニティづくり活動。四季の道ウォーク&清掃活動・さくらさくさくウォークラリー・ほたるの道しるべ・駅伝大会。

子ども達を対象とした地域での文庫(図書館)活動。

子ども達を対象とした工作・手芸教室を開催。

地域の高齢者に対する見守り活動を実施するための準備活動。アンケート調査・研修会の実施・マニュアルの作成。

子育て世代の親子を対象に、おもちゃで自由に遊ぶ時間を主として、手遊びと絵本の読み聞かせを行う。(年4回土気公民館で開催)

日本語が母国語でない子ども達に対する日本語修得支援、教科理解のサポート、高校受験のための支援等を行う。

子どもと共に伝承文化を再創造する会。伝承文化「鞆鼓(かっこ)舞」の再創造と椎名小学校の児童による演舞。

#### 募集の時期と申し込み方法は

2012年の場合は2月中旬に申請、3月に審査で、年度内に結果が出ました。申し込みは緑区役所で、応募要領などは市政だより緑区版やホームページに掲載されます。

「福谷章子のまちづくり通信」いかがでしたでしょうか？

みなさまのご意見ご要望をお待ちしております。

今後、「防災に関する勉強会」や「市政だよりを一緒に読む会」などを企画してまいります。関心のある方はぜひご参加ください。

福谷章子事務所→TEL&FAX 312-2903